

寿限無（落語）4年

●指導目標

- 場面の移り変わりや情景を想像しながら，笑い話のおもしろさを味わって読む。

●教材について

本教材の読むことの学習「寿限無」は，4年生の本文教材の学習『アジアの笑い話』の中の『ぞろぞろ』でふれた落語の世界のおもしろさを，さらに広げていくための補充教材である。本教材は，気っぷのよい江戸っ子気質を誇張して描き，本文教材よりもさらに，声に出すことでそのおもしろさが倍増するという作品の特徴をもっている。ここでは，内容を読み取ることに重きを置くのではなく，江戸庶民の話し言葉の味わいが表れている文章を十分に音読し，落語の世界を味わうことで，「もっと読みたい」という意欲をもたせたい。

なお，本教材の主題は，「我が子には，できるだけたくさんの幸せをつかんでほしいと，行きすぎたほどに願う親心がもたらすおかしさ」，「急場でも，律儀に長すぎる名前を呼び合うナンセンス」である。

そこで，本実践では，以下のことに留意し，指導にあたることとする。

（１）注意させたい表現

本教材の表現には，父親の求めに応じてあれこれと知恵を出し丁寧に説明してくれるおしょうと，その真意を理解できずに，親の望みがとどまるところをしらない様子や食い違いが表れ，単純で物事を深く考えようとしない江戸っ子の話しぶりや特徴，とにかく早くなんとかしてしまおうという短気な様子が表れている。また，短い話し言葉が聞き手に受け入れられやすくなっている。いよいよ名前が長くて困るエピソードの部分に入ると，落語の歯切れのよい，なめらかなよどみのない話しぶりは，ぜひCDなどで児童に聞かせたい。最後の部分には，落語のおきまりである「落ち」があり，その役目も児童に伝えていきたい。

（２）表現上の特色

ほとんど会話文で話が展開していくのが，落語の特徴である。早口で物事を深く考えない父親の話しぶり，落ち着いた物静かな思慮深いおしょうの話しぶりとの対比が，よりおもしろさを醸し出し，聞いているものを引きつける。また，会話の中に表れる，江戸庶民の独特の言葉づかいや間の取り方，早口な言い回しなど，文字からではなく耳から音声で聞くことで，よりその特徴を感じることができる。『音声編』などを活用して，その味わいを実感させたい。また自分たちも声に出して読むことで，それぞれの個性的な話しぶりや歯切れのよい，はっきりした話しぶりなどを体験することが，音読の幅を拓けることにもなるに違いない。

（３）さらなる発展・補充学習について

近年，幼児番組でこの『寿限無』が取り上げられたことがきっかけになって，落語の音声言語としての楽しさが注目されている。そのため書店には，子供向けの落語に関する本のコーナーまでできている。これらを使って，音声言語としての落語の楽しさを，さらに他の作品でも経験させたい。また落語の条件（一，落ち 二，弁舌 三，仕形）とあるように，身振り手振りも含めて，そのしゃべりの立体的な演出を見ることが，話すことのよい学習になるはずである。

● 学習指導計画（全 1 ～ 4 時間） 1 時間で行う場合は，第 1 時と第 3 時のみを行う。

展開・時		過程	学習活動	留意点，評価規準及び方法
次	第 1 時	・課見題通をしつをかむむつ	○「音声編」を聞き，おもしろいと思ったところを話し合う。 ・話のおもしろさ。 ・話しぶりのおもしろさ。 ・語り口のおもしろさ。など	関 ：落語を楽しみながら読もうとしている。 (発表・態度)
	第 2 時	・表表現現のを工夫高める	○実際に声に出して読む。 ・追い読み。 ＜指導者のあとに続いて読む＞ ・一文リレー読み。(グループ) ＜一文ずつ交代でリレー形式で読む＞ ・役割リレー読み。(グループ) ＜役割毎に交代でリレー形式で読む＞ 学級全体でも「一文リレー読み」「役割リレー読み」などを行う。	○言い慣れない言い方もあるので，言葉を正確に読むように気をつけさせる。 ○一人全文 10 回程度を目標とする。 ○さまざまな音読の方法で繰り返し読ませる。 関 ：意欲的に読もうとしている。(音読・態度)
	第 3 時 (本時)	へ実グ践ループ音読	○どんな読み方をしたら江戸の人々の様子(落語の語り口調)がより表れるか，話し合う。 ○グループで，おもしろかった場面・気に入った場面を決めて，父親・母親・おしょう・長屋のおばあさん・近所の子どもたち・ナレーター役になって，音読の練習をする。	○気をつけたいことや想像したことなどをノートに貼った本文に書きこませる。 ○人と人との掛け合いのおもしろさも大事にさせる。 言 ：場面や人物の様子を考えて，適切な速さや音量で読んでいる。(音読) ○長屋のおばあさん・近所の子どもたち・ナレーター役は登場場面が少ないので何役かを掛け持ちさせる。
	第 4 時	発表	○グループごとに発表する。 ○聞き手は，よかったところなどを評価カードに書いて発表したり，一言感想を付箋紙に書き，発表グループ名の下に貼ったりする。	○自己評価と友達の評価とを比べて，聞き手の受け止め方も意識させる。 読 ：場面の様子を想像しながら，特徴的な言葉に気をつけて，音読している。 (音読・観察) ○自己評価と相互評価を組み合わせ，発表者の意欲につなげたり，聞き手の意識もはっきりともたせる。

●本時の展開（本時 3 / 4）

目 標

- ・江戸の人々の様子（落語の語り口調）がより表れるように，気をつけたいことや想像したことを生かしながら，人と人の掛け合いを工夫し，配役を考えながらグループ音読をすることができる。

●展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価・支援
1 本時のめあてを確認する。 江戸の人々の様子（落語の語り口調）がより表れるように，グループ音読をしよう。 2 グループ音読の準備をする。 ○グループごとにおもしろかった場面・気に入った場面を決める。 ○登場人物やナレーター役など役割を決める。 ○どんな読み方をしたら江戸の人々の様子（落語の語り口調）が表れるかグループで話し合い，発表する。 ・元気よくせっかちに読む。 ・前の人と間をおかずに読む。 ・江戸の口調を真似する。 ・リズムに気をつける。 3 グループ音読の練習をする。 ○気をつけたいことや想像したことなどをノートに貼った本文に書きこみながら個人練習をする。 ○個人練習での工夫の確認をしながら，人と人との掛け合いに気をつけてグループ練習をする。 ○中間発表をする。 勢いがあり，ちょっとせっかちで，人と人との掛け合いにリズムのある江戸の人々の様子が表れるような音読をグループごとに練習する。 4 次時の学習を確認する。	○場面分けは，構成を考えて6つの場面を基本とするが，2つにまたがったり，いくつかのグループが同じ場面を選んでもよいこととする。 ○登場人物をなどを考えてグループ内での配役を決めさせる。 ○選んだ場面の最初の方を実際に声に出しながら，効果的な読み方を話し合わせる。 ○場面が違っていても，それぞれに参考となる部分が多いので，他のグループが提案した読み方も試させ，より効果的な読み方を探らせる。 ○読み合わせやグループ内での相談もしながら，個人の読み方の工夫をグループのものへと発展・深化させていく。 ○お互いの進行状況や工夫を確認することで，よさを取り入れたり，さらなる工夫を探ったりできるようにする。 ○今日の学習を生かして，次時はグループごとに発表することを確認する。	○前時までの学習をふまえ，それぞれが出し合ったなかから話し合っ決めて助言する。 ○希望により決めていくが，場合によっては人物を2人で行うなど助言する。 読：音声 CD も含めた前時までの学習を参考にしながら，特徴的な言葉や言い回しについて見つけている。（発表・観察） ○特徴的な言葉や言い回しについては，実際に音読をしながら確認するように助言する。 ○個人練習とグループ練習がうまくかみ合っているように助言する。 ○お互いがよい刺激となるように助言する。 言：江戸の人々の様子（落語の語り口調）が表れるように工夫して音読している。 （音読・観察）

● 評価カード

月 日 () 4 年 番 []
 グループ音読を聴きま表・確かめま表
 ○ をつけよう！

グループの名前						
声の大きさはちょうどか。						
すらすら読めていたか。						
読み方をくふうしていたか。						
様子が伝わってきたか。						
合計点						

< 感想 > とてもよい 3 点、○よい 2 点、 もう少し 1 点

自分のグループ	

● 授業の振り返り

特徴的な言い回し（江戸の人々の様子や落語の語り口調）を身をもって体験していくには、音声資料（実際の CD やビデオなど）が必要不可欠である。できれば、教科書に準拠したものを子どもたちに聞かせて授業を構成したいところである。もしも、準拠した音声資料がない場合でも、「寿限無」については、現在、さまざまな音声資料が市販されているので、ぜひ活用したい。本単元では、教科書に準拠した音声資料のほかに、落語の CD やビデオを見せる機会をもった。特徴的な言い回しなどを実感するには、やはり、本物にふれ、それをまねて体感してみるという活動が有効であった。また、音読の発表場面では、聞き流しにならないように、観点を決めて能動的に聞く態度も養いたいものである。